

2. 多文化国際交流科 (2025年度)

【月曜日授業予定表】 講師: 大阪国際交流センター、大阪日本語教育センター、アジア協会アジア友の会等

				午 前			午 後		
回	月	日	曜日	テーマ	内 容	講 師 名	テーマ	内 容	
1	7	月	①	①入学式 & オリエンテーション (合同、大阪国際会議場)					
2	4	14	月	1	多文化共生社会をめざして (国際交流への誘い)	日本に多様性をもたらした新たな成長機会を創出する「多文化共生社会」とは	橋本 政幸 大阪府日中友好協会	自己紹介、年間学習・行事予定等の説明 クラスオリエンテーション	
3	28	月	2	2	多文化共生の現状と課題	大阪市の多文化共生への取り組みについて(一人ひとりにできること)	岸 俊之 大阪国際交流センター	高大オリエンテーション、班役割分担説明	
4	12	月	3	3	・班各担当・班長決定 各担当別会議(代表者決定他)		熱田 典子 アジア協会アジア友の会	ネパールに嫁いで知った文化 日本在住のネパール人が増える意図をさぐる	
5	5	19	月	4	コーダイ流の多文化国際交流①	自分に出来る国際交流とは	出水 眞由美 MIRAI PLUS代表	クラス委員長決定、第1回遠足行先検討	
6	26	月	5	第1回遠足行先決定					
7	2	月	6	6	コーダイ流の多文化国際交流②	SDGs(持続可能な開発目的)の根底にある多文化共生について	松村嘉久 阪南大学教授	★国際観光都市・大阪と大阪・関西万博が大阪の国際化にどのような影響を与えるのか。	
8	9	月	②★	② 遠 足					
9	16	月	⑦	⑦	日本語の教え方を学ぼう①	日本語で心通じるコミュニケーションをするには	磯田郁子 大阪日本語教育センター副センター長	③社会への参加活動(準備活動)(活動事例研究)	
11	21	土	8	自主活動					
12	30	月	9	⑧	日本語の教え方を学ぼう②	日本語で心通じるコミュニケーションを実践	磯田郁子 大阪日本語教育センター副センター長	★多文化交流会 留学生と日本語でコミュニケーション交流	
13	7	14	月	10	音楽を通じて多文化を学ぶ	西洋音楽の成立過程と、日本音楽への影響を考察	小西 功修 トランシールズジャパン株式会社	健康まつり説明 参加対応検討、自主企画講座検討	
8				夏 休 み					
14	8	月	11	11	フランス文化について	フランスと日本の衣食住文化の相違	田中 恵利佳	コーダイフェスタ発表準備、自主企画講座決定	
15	9	22	月	12	生命の水 うるおす未来	2025年スリランカの今	柿島 裕 アジア協会アジア友の会	コーダイフェスタ発表準備	
16	29	月	13	★	JICA関西協力の活動を学ぶ	海外から見た日本(海外体験談)	JICA海外協力隊	JICA関西 見学	
17	6	月	14	14	共に生きるために	外国人住民は支援を受ける存在ではなく、共に地域を創っていく担い手である	木村 多恵子 エール学園校長	健康祭り参加準備・コーダイフェスタ発表準備	
18	8	水	④	④コーダイ健康まつり(日程、場所は未定)					
19	20	月	15	コーダイフェスタ発表準備					
20	27	月	16	★	海外からの人材の育成について	産業人材にかかわる教育方針と課題の解決方法をさぐる	留学生 (エール学園)	留学生と日本語でコミュニケーション交流	
21	10	月	17	17	フィンランドの文化について	フィンランドはなぜ幸福度が高いのか	トッティ・タッパー トランシールズジャパン株式会社	施設見学、交流会	
22	11	17	月	18	コーダイ流の多文化国際交流③	社会参加活動の目標と取り組み(ワークショップ)	出水 眞由美 MIRAI PLUS代表	コーダイフェスタ発表準備仕上げ	
23	19	水	⑤	⑤コーダイフェスタ(豊中市立文化芸術センター)					
24	1	月	19	卒業旅行行先決定					
25	12	8	月	20	スペイン(カタルーニャ)を知る	独自の歴史・伝統・習慣・言語を持ち、民族意識を有しているカタルーニャについて	松村 嘉久 阪南大学教授	★大阪における多文化共生の現場から 多文化共生の理想的なあり方とは	
26	15	月	21	自主企画講座					
				冬 休 み					
27	19	月	22	22	ウクライナの今	ウクライナ人道支援を続ける中、見えてきたものは	小野 元裕 日本ウクライナ文化協会	卒業旅行 行先決定	
28	26	月	23	★	イスラム教を学ぶ	モスク(イスラム教の礼拝堂)を大阪に建設の意図からみえることは	アズズルガフル Cultural Hub 代表	マシンドイスティラル大阪 見学 (イスラム教礼拝見学)	
29	2	月	24	24	日本という国で生きる	日本社会の一員となったバングラデシュ人	マホムッドジャケル	成果発表会準備	
30	7	土	⑥	⑥社会への参加活動 ワンワールドフェスティバルに出展、ボランティア活動の情報交換					
31	16	月	25	25	ドイツの実情	豊さをもたらす多様性の国ドイツの生活形態から知る文化について	ANJA SLIWA	成果発表会準備	
32	2	月	26	学習成果発表会					
33	9	月	⑦	⑦修了式					
34	9	月	⑧	⑧・⑨卒業旅行(1泊2日)					
35	10	火	⑨	⑨					
				授 業(自主企画、成果発表会含む)		26(講座数列1~26)			
				学 習 事 業 (① ~ ⑨)		9(講座数列①~⑨)		2024.11.20	
				合 計		35			

注) 1. 日程、カリキュラム内容等は、都合により変更になる場合があります。